

愛宕臨床栄養研究会（ACNC）第53回学術研究会

—— 第三病院における糖尿病チーム医療の取り組み ——

日 時：平成17年3月10日 午後6-8時

会 場：東京慈恵会医科大学 西新橋校 大学一号館6階講堂

愛宕臨床栄養研究会・学術研究会抄録の掲載について

愛宕臨床栄養研究会（ACNC）は、本学を中心として地域の医療に携わる栄養士、薬剤師、看護師、医師、および医学研究者が集い、定期的に開催している臨床栄養の研究会です。平成元年以来すでに50回をこえる学術研究会を開催してきました。医療における栄養学の重要性が増すなかで研究の成果を少しでも多くの方にご覧いただくための方法を模索してきましたが、このたび東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会のご協力を得て学術研究会の抄録を本誌に掲載していただくことになりました。本研究会では、よりよい栄養医療を提供するために今後とも研究活動を続けて参ります。抄録をご覧になってお気づきの点がありましたら、研究会事務局宛にぜひお寄せください。またご興味があるかたは、是非一度学術研究会にお立ち寄りくだされば幸甚です。ご案内は学内・各附属病院に掲示するほか、ご希望の方には郵送いたします。

愛宕臨床栄養研究会 会長 矢永勝彦（東京慈恵会医科大学外科学講座）

事務局 松藤千弥（東京慈恵会医科大学大学生化学講座第2）

演題1：医師の取り組み

第三病院 糖尿病・代謝・内分泌内科医師 石井 博尚

糖尿病は生活習慣病であり、その治療は医師の処方だけで済むものではない。治療のためには患者自身が疾患を正しく理解し、生活習慣を正す必要性がある。このため糖尿病の治療においては多角的に患者を分析し、それに沿ったアドバイスを与えるチーム医療が重要視されている。

第三病院で行っている糖尿病患者指導のための取り組みは、以下のようなものが挙げられる。

入院患者を対象としたものとしては、糖尿病教育入院用のクリニカルパスを導入している。診療内容を定型化することで、各スタッフの診療への理解度を高めることができる。さらに糖尿病チェックリストを併用して、血糖コントロール不良の原因や糖尿病への理解度、自己管理の実践度などの個々の患者像を各専門スタッフの目から分析している。また入院患者を対象にして、月曜日から金曜日まで毎日糖尿病教室を開催している。これには栄養部、薬剤部、看護部、臨床検査部の

すべてが講師として参加している。

外来患者を対象にした患者指導については月1回の糖尿病教室の他、当院の糖尿病患者会であるいずみ会の活動（食事会、歩く会を年2回ずつ開催）が特色として挙げられる。食事会は横山診療部長と栄養部で作成した地中海型料理のコースを第三病院内の食堂ベラにて実際に食べていただく。食前後の血糖値を測定し血糖値の上昇が緩やかである点と、地中海型の食生活に触れられた点、食後の満足度が高い点などから毎回好評を得ている。歩く会では看護部も参加して、当院から多摩川まで約2km程のウォーキングを行う。その際にストレッチの指導と、脈拍測定から歩行速度の指導をしている。

演題2：看護師の取り組み

第三病院 7B病棟 看護師 見留 千秋・堰免 真由美

糖尿病は自己管理の病気であるといわれており、患者自身が病態・治療法を十分に理解し日々の生活の中で実行していくことが大切である。糖

尿病教育入院においては約1~2週間という短期間で糖尿病の自己管理に必要な生活スタイル・知識を身に付けなければならない。このような中で7B病棟看護師は「糖尿病教室」や「クリニカルパス」を活用し患者様が自己管理能力を高めるようかかわっている。今回はこれらの取り組みについて発表する。

演題3：薬剤師の取り組み

第三病院 薬剤部 薬剤師 鈴木 一美

糖尿病は生活習慣病で、患者指導が十分な効果をあげるためには、食事、運動、ストレス対策、喫煙、アルコール摂取、病気への理解、検査値の意味、服薬の意義などに対するきめ細やかな指導が必要となる。このような指導のすべてを医師が行うことは困難である。したがって、医師、看護師、栄養士、臨床検査技師、薬剤師等によるチーム医療として行われることが望ましい。医療チームの一員として薬剤師の視点からメンバーの役割を果たすことがチーム医療の構築に寄与しているといえる。

今回のテーマにおける薬剤部の取り組みと第三病院の特色である総合学習会で発表した内容（資料配布）とその後、関連部署との連携で院内への情報提供を行った事例を紹介する。また、薬剤部では地域医療への貢献として、近隣薬剤師会と偶数月に知識の共有・親睦・情報交換を目的とした合同勉強会を開催している。

以下、薬剤部の取り組みを列挙する。

- (1) 患者様向け勉強会（糖尿病教室）では血糖測定器の使用法や薬剤の適正使用等、質疑応答を入院患者様には1回/月、外来患者様には1回/年（糖尿病ノートブック使用）行っている。
- (2) いずみ会では総会、歩く会、ベラ食堂での食事会に参加
- (3) 糖尿病教育入院クリニカルパスウェイにおける服薬指導（BS自己測定・インスリン自己注射の手技確認等）
- (4) 総合学習会（1回/月）：構成メンバーは医師・栄養士・看護師・臨床検査技師・薬剤師であり、順番に担当する。薬剤部からは

薬剤関連情報提供と症例検討を発表している。

- (5) 地域薬剤師会合同勉強会では、平成12年には「新しい視点に立った糖尿病薬」糖尿病・代謝内科診療部長の横山淳一先生、平成15年には「糖尿病と薬物治療」かたやまクリニック院長の片山隆司先生にご講演いただいた。

演題4：検査技師の取り組み

第三病院 中央検査部 検査技師 木杉 玲子

生活習慣病である糖尿病の治療は、患者様の主体的な自己管理がなくては成り立たない。そこで教育入院の集団教育指導では糖尿病の基本事項を知ってもらうことと良好な血糖コントロールがなぜ必要なかを前提に検査を診断、経過観察、合併症に関するものに分けて説明している。

また、チーム医療を行う上で重要な点として、スタッフ間のコミュニケーション、情報交換、情報提供がある。これらの点についても検査部では検証を行った上で他部署と連携をとり、迅速・的確に対応している。

演題5：栄養士の取り組み

第三病院 栄養部 管理栄養士 倉橋 薫

糖尿病の治療成績は、ケアチームの能力によると言われている。医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・栄養士がチームで対応することにより、より質の高い、効率の良いケアと教育ができるのではないかと考える。当院では、患者教育の必要性を認識した医師を中心に教育入院の計画が立てられ、糖尿病教育のチーム医療ができあがってきた。計画の際には、集団指導用のテキスト作成にともない、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・栄養士がミーティングを行い、それぞれが各専門分野を担当し、医師を中心にオリジナルのテキストを作成した。

栄養部では、教育入院時の個人指導は、入院するとともに医師から依頼票が2枚出され、栄養部で予約を入れ病棟へ戻す方法を取り、入院中にほぼ2回の個人指導を実施している。集団指導に関

しては、指導前に集まった方々の糖尿病に対する理解度を把握する目的でアンケート用紙に記入をお願いし、理解度に沿った栄養指導を行っている。

また、栄養部では、糖尿病患者の会である“いずみ会”の事務業務全般を担当し、日本糖尿病協会の発行する機関紙「さかえ」の発送、各行事の企画、案内等に携わっている。

演題6：食事会・ウォーキング・研究発表等

第三病院 栄養部 管理栄養士 藤山 康広

年2回ずつ開催している、食事会(ペラ食堂)とウォーキング(多摩川方面)の実施風景を紹介する。また、第三病院成医会で発表した「地中海型料理による会食前後での糖尿病患者の血糖値の変動」について報告する。